

平成 26 年度 事業計画

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

I 公益目的事業

[公 1 コンクリートに関する調査研究事業]

1. 調査研究事業

(1) 研究委員会所管の委員会

(A) 平成 26 年度継続する研究専門委員会

- 1) コンクリート構造物のインフラドック構築フィージビリティ調査研究委員会
(平成 24-26 年度)
- 2) 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会
(平成 25-26 年度)
- 3) 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会
(平成 25-26 年度)
- 4) コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会
(平成 25-26 年度)
- 5) 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会
(平成 25-26 年度)

(B) 平成 26 年度新規の研究専門委員会

- 1) コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会
(平成 26-27 年度)
- 2) あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会
(平成 26-27 年度)
- 3) コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会
(平成 26-27 年度)
- 4) フレッシュコンクリートの品質および施工性判定のための簡易試験法と評価および PDCA サイクルにおける適用に関する研究委員会
(平成 26-27 年度)

(2) 技術委員会所管の委員会

- 1) マスコンクリートソフト作成委員会
(平成 25-26 年度)
- 2) コンクリート基本技術調査委員会
(平成 26-27 年度)
- 3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会
(平成 26-27 年度)
- 4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会
(平成 26-27 年度)

- 5) サステナビリティ委員会 (平成 26-27 年度)

(3) 支部研究委員会 (確定している委員会のみ記載)

- 1) (北海道支部) 積雪寒冷地の既存コンクリート構造物に適用する非破壊・微破壊試験方法研究委員会 (平成 25-26 年度)
- 2) (北海道支部) 積雪寒冷地におけるコンクリート補修工法の設計施工に関する研究委員会 (平成 26-27 年度)
- 3) (中部支部) ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立に向けた研究委員会 (平成 25-26 年度)
- 4) (中部支部) 東山動植物園恐竜像調査保存委員会 (平成 25-26 年度)
- 5) (中部支部) 生コン工場で製造されたフライアッシュコンクリートの耐久性評価と延命効果予測研究委員会 (平成 25-26 年度)
- 6) (四国支部) 塩害劣化を受けた鉄筋コンクリート構造物の耐荷力評価委員会 (平成 25-26 年度)
- 7) (四国支部) 混和材・各種スラグの積極的活用・機能向上に関する研究委員会 (平成 26-27 年度)
- 8) (四国支部) 四国の生コン技術力活性化委員会 (第 2 弾) (平成 26-27 年度)
- 9) (九州支部) コンクリート埋込みアンカーの信頼性向上研究専門委員会 (平成 25-26 年度)
- 10) (九州支部) 吹付け工法における施工と品質の評価手法研究専門委員会 (平成 25-26 年度)
- 11) (九州支部) 建設材料としてのジオポリマーに関する研究専門委員会 (平成 26-27 年度)

○継続する研究専門委員会の計画

(1-A-1) JCI-TC125FS「コンクリート構造物のインフラドック構築フィージビリティ調査研究委員会 (平成 24-26 年度)

年度末に報告書を取りまとめる。WG 1 (欠陥評価手法検討) では、①試験方法の適用限界・課題の抽出とモニタリングの定義づけ、②劣化フェーズと検出対象とする現象のスケールおよびレベルの整理、③リスクを考慮した試験法やモニタリングの提案、④ケーススタディの実施と調査を行う。

WG 2 (現場検査手順の確立) では、1 次調査の内容、それを前提とした 2 次調査の内容を考慮した劣化過程に適したセットメニューの草案を作成する。

WG 3 (検査制度の確立と診断士活用) では、インフラドックによる建設産業のサービス化について配慮し、実施可能なインフラドック制度の提案とどのようにコンクリート診断士を組み込むかを検討する。

(1-A-2) JCI-TC131A 性能設計対応型ポーラスコンクリートの施工標準と品質保証体制の確立研究委員会

(平成 25-26 年度)

本年度は新たなWGを設置して活動を実施する。性能設計WG（仮称）はポーラスコンクリートの要求性能、施工標準WG（仮称）はポーラスコンクリートの製造方法や標準的な施工方法、品質保証WG（仮称）は品質管理および維持管理とし、各WGは性能設計を実現させるべく、それぞれ既往の実績を整理した内容から基準（試案）を作成し、我が国の技術レベルに適した設計・施工標準（案）と品質保証システムを提示する。

(1-A-3) JCI-TC132A 混和材を大量使用したコンクリートのアジア地域における有効利用に関する研究委員会

(平成 25-26 年度)

本年度は、海外調査WGと大量使用WGを設置し、我が国の土木分野・建築分野およびアジア各国で研究開発が進められてきている「ポルトランドセメントを混和材で大量置換したコンクリート」の技術および規格の現状について調査するとともに、各種混和材を大量に用いたコンクリートの物性を把握するための実験も実施する。また、ACFの関連委員会とも密に連携して情報収集を行い、最終的には、アジア地域の気象条件および副産場所を考慮したうえで、コンクリート構造物の種類・要求性能に応じた有効利用方策について検討し、当該コンクリートの利用ガイドラインの策定に資する資料を整備する。

(1-A-4) JCI-TC133A コンクリートの技術基準に関する情報活用手法研究委員会

(平成 25-26 年度)

WG 1における各種試験方法の標準化に係わる検討およびWG 2における各種基準、仕様書類と試験・検査方法の関連性の整理を行う。また、それら技術基準類の情報を効果的に活用するための技術手法について整理し、27年2月頃を目処に報告書として取り纏め、27年5月頃を目処に報告会を開催する。

(1-A-5) JCI-TC134A 物理化学的解釈に基づく電気化学的計測手法の体系化に関する研究委員会

(平成 25-26 年度)

平成 25 年度の活動を受けて、特に、測定誤差が大きい場合や、測定結果が得られない事例等に関して重点的に整理する。このような情報は、大学での卒業論文や、現場でのモニタリング生データなど文献化・公表化されていないものに多く含まれていると想定されるため、必要に応じて共通試験を実施する。

最終的には、電気化学的計測および防食に関して、各種測定方法と、測定結果に与える影響因子とその程度を図式化等でわかりやすく報告書で提示することを目指す。

○新規の研究専門委員会の計画

(1-B-1) JCI-TC141A コンクリート中の気泡の役割・制御に関する研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、コンクリート中の気泡に着目、気泡の量と質を制御し、管理する技術や気泡の役割、効果について文献調査と実験的検討を通して総合的に整理することを目的に調査研究を行

う。

委員会では、①コンクリート中の気泡の役割に関する調査研究WG、②コンクリート中の気泡組織の試験評価WG、③コンクリート中の気泡制御技術WGの3つのWGを設置する。

(1-B-2) JCI-TC142A あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立と設計の高度化研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、以下の項目について検討を行い、あと施工アンカーの耐久性の評価方法の確立および設計へのフィードバックを目指すとともに、最新の数値解析による評価方法の高度化を図る。

- ① 技術の現状調査（最近 20 年を中心とした）
- ② 海外での試験方法調査およびそれを踏まえた共通試験の実施
- ③ 適用の範囲、破壊のモードや安全係数の検討、設計へのフィードバック
- ④ 最新の数値解析技術による耐久性評価の試み

(1-B-3) JCI-TC143A コンクリート構造のせん断力に対する包括的照査技術研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、せん断問題に関する近年の研究成果を整理した上で、鉄筋コンクリート構造物のせん断に対する照査法の高度化に資する情報を提供することを目的とした調査研究を行う。土木・建築分野の各種せん断耐力算定法を整理し、合理的な設計および照査法を検討するWGと、非線形解析技術を用いて構造物のせん断破壊挙動の解明を試みるWGを編成することにより、最新の研究成果を包括的に整理するとともに、せん断破壊挙動の新たな評価法の提案を目指す。

(1-B-4) JCI-TC144A フレッシュコンクリートの品質及び施工性判定のための簡易試験法と評価およびPDCA サイクルにおける適用に関する研究委員会

(平成 26-27 年度)

本研究委員会は、コンクリートの配(調)合選定時および現場受入れ検査時に適用できるフレッシュコンクリートの品質評価指標（締固め性、間隙通過性、材料分離抵抗性等）の定義の明確化、品質評価指標の定量化、品質評価に関する推奨試験法と品質判定基準、ならびに、これらのPDCA サイクルにおける適切な適用方法の提案を目的とした調査研究を行う。

フレッシュコンクリートの品質評価指標の定義や定量化に関する理論的アプローチに基づき、材料、配(調)合の異なるコンクリートで作製した模型供試体等を用いて、締固め性、材料分離抵抗性等に関する試験を実施し、これらの試験結果より、配(調)合選定時の定量的な評価・判定方法、現場受入れ検査時の比較的簡易な評価・判定方法を考案する。また、コンクリート施工をPDCA サイクルの観点で整理し、評価判定法の適切な適用と運用方法を提案する。

○技術委員会所管の委員会の計画

(2-1) マスコンクリートソフト作成委員会

本委員会は、温度応力に加えて、湿気移動を考慮した乾燥収縮、自己収縮を考慮した応力解析ソフトJCMAC3と、JCMAC1,2統合版のバージョンアップ、JCMAC関連ソフトのサポートおよび普及を図るため、以下の活動を行う予定である。① JCMAC3のバージョンアップ(JCMAC-Uの開発、温度およ

び乾燥収縮ひび割れを考慮した非定常の耐荷力解析が実施できるソフト), マニュアル作成およびサポート, ②New JCMAC1, 2 (仮称) リリースとサポート, ③JCMAC3 講習会 (2 回開催), ④ JCMAC 関連ソフトの普及活動

(2-2) コンクリート基本技術調査委員会

コンクリートの施工工程における「施工計画」, 「製造・運搬」, 「型枠・支保工」, 「鉄筋工」, 「打込み・締固め」, 「仕上げ」および「養生」の一連のコンクリートの技術ごとにWGを編成し, それぞれに関連する基本技術を整理する。本年度は打込み・締固めWGの成果および養生WGの成果に関する講習会を計画するとともに, その他のWGの成果についても, 技術者に必要な情報を会誌, HP, 講習会を通じて発信する。

(2-3) コンクリート構造物の長期性能シミュレーションソフト作成委員会

本年度は, コンクリート構造物の高機能劣化シミュレーションソフト「LECCA Ver. 3.0 (以下, LECCA3)」を製作し, 市販する。このソフトの主な特徴は, ①構造体における劣化部位の特定が可能, ②3次元構造体の劣化進行予測が可能, ③補修材料・工法の効果の定量的予測が可能, ④計算結果のアウトプットがそのまま劣化構造物の構造解析に利用できる情報となる, 等の特徴がある。

また, 仕上げ材および補修材料の性能評価にあたって, プログラムに入力する材料物性値を求める試験方法が十分に確立されていないことから, 本委員会では, 新たに LECCA シリーズに入力する各種材料物性値を算出するための試験方法の案を作成し, JCI 規準案として規準委員会に提案するべく検討を進める。

(2-4) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂委員会

「マスコンクリートのひび割れ制御指針 2016」の刊行に向けて, 本年度は以下の調査研究活動を行う。①平成 24-25 年度の委員会活動成果報告書を基にした成果報告会 (6 月 6 日) を実施する。②同活動成果に基づいて, 指針の改訂の内容を決定する。③ひび割れ制御指針の英文版のドラフトを作成する。④資料集をとりまとめる。⑤制御指針の海外普及のために開催するワークショップなどの計画をすすめる。⑥平成 24-25 年度から継続する DEF に関する実験 (再現実験) を実施する。⑦その他, 5 つのWGにより, 制御指針の改訂に必要な情報の収集を継続する。

(2-5) サステナビリティ委員会

認証登録検討WG, 教科書検討WG, 評価ツール検討WG, 評価指標検討WG, およびサステナビリティフォーラムで活動を行う。認証登録検討WGは, 現在提案中の認証登録制度について本委員会内での活動が必要な場合のみ継続する。教科書検討WGではテキストと問題の増補を, 評価ツール検討WGではより高度な評価ツールの開発を, 評価指標検討WGでは引き続きサステナビリティ宣言 8 項目の評価指標開発を, フォーラムではウェブサイトのコンテンツの完成を目指して, それぞれ活動を行う。また, 「コンクリート環境士 (仮称)」資格制度と「認証登録」制度の創設のための環境整備に努める。

2. 標準化事業

標準化委員会所管の委員会

- (1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会
- (2) ISO/TC71 対応国内委員会
- (3) アジアモデルコード研究委員会
- (4) JCI 規準委員会

(1) コンクリート試験方法 JIS 原案作成委員会

- 1) 次の JIS の改正に関する審議を継続する。
 - ・ JIS A 1145:2007 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—化学法—
 - ・ JIS A 1146:2007 骨材のアルカリシリカ反応試験方法—モルタルバー法—
 - ・ JIS A 1149:2010 コンクリートの静弾性係数試験方法
- 2) 2016 年度に見直しが必要となる規格について改正要否を検討し、必要に応じ改正原案作成に着手する。

(2) ISO/TC71 対応国内委員会

- 1) ISO/TC71 および各 SC への対応

2014 年度に予定されている ISO/TC71 総会および各 SC の会合等に、SC 議長・幹事・WG コンビナーナとして参加し、会の運営を図る。また、併せてエキスパートを派遣し日本の意見を主張する。
- 2) ISO/TC71 の SC 幹事国および SC 議長業務の遂行

次の SC の議長・幹事・コンビナーナの役割を継続遂行する。

 - ・ SC6 (コンクリートの新しい補強材)：議長および幹事
 - ・ SC7 (コンクリート構造物の維持および補修)：議長およびコンビナーナ (WG 4)
 - ・ SC8 (コンクリートおよびコンクリート構造物の環境マネジメント)：議長および幹事
 - ・ SC5 (コンクリート構造物の簡易設計標準)：コンビナーナ (WG)
- 3) 各種 ISO/TC71 からの各種提案への対応

国内関係機関と連携し、ISO/TC71 から提案される各種規格案等の投票に対応する。
- 4) 新規 ISO 規格の提案

昨年度に引き続き、日本から提案した次の ISO 規格案について各国との調整を図り、早期の規格化を図る。

 - ① FRP 材を用いたコンクリート構造物の設計のためのガイドライン
 - ② コンクリート構造物の耐震評価および補修ガイドライン
 - ③ プレストレストコンクリート水道タンクの簡易設計法
 - ④ FRP によるコンクリートの補強 - FRP シートの仕様
 - ⑤ 壁式建築物の簡易耐震設計ガイドライン
 - ⑥ コンクリートおよびコンクリート構造物の環境ラベリング

(3) アジアモデルコード研究委員会

次に示す各項目についての ISO 規格化を実現すべく, ISO/TC71 対応国内委員会と連携して, アジアモデルコードを基とした検討を鋭意進めていく。また, 上記を進めるため 2014 年 9 月に 韓国・ソウルで開催される第 6 回 ACF (アジアコンクリート連盟) 総会ならびに ACF 技術委員会へ委員を派遣する。

- 1) コンクリート構造物のライフサイクルマネジメント
- 2) コンクリート, コンクリート構造物の環境ラベリングおよび 必要関連規格
- 3) コンクリート構造物の耐震診断および耐震補強

(4) JCI 規準委員会

研究委員会等が提案した規準案・指針案に対し, JCI 規準あるいは JCI 指針としての要件を備えているか否かを審議し, ISO, JIS 等の動きを見据えて, 必要に応じた調整を行っていく。日本コンクリート工学会規準・指針の制定/改正に関する規定の改正を行う。

3. 国際化事業

- (1) fib Steering Committee に代表委員を派遣する。
6 月, 場所未定, 国際委員会 fib 担当委員
- (2) ACI 国際委員会等に代表委員を派遣する。
- (3) OWICS (シンガポール) 国際会議の支援を行う。
8 月 20 日~22 日 シンガポール
- (4) RILEM/TAC 会議に代表委員を派遣する。
9 月 1 日~4 日 (ブラジル・サンパウロ) , 国際委員会 RILEM 担当委員
- (5) ACI と協力してジョイントセミナーを行うための準備を行う。
JCI-ACI Collaboration Committee にて, JCI-ACI のジョイントセミナーの準備を行う。
- (6) ACF の会長国として国際委員会等の代表委員を派遣するとともに, 諸事業活動を積極的に支援する。
 - ・ ACF 主催 フォーラム・セミナー (サステナビリティ関係)
5 月 8~10 日 (モンゴル・ウランバートル)
9 月 21 日 (韓国・ソウル)
 - ・ 第 6 回 ACF 総会: 9 月 21 日~24 日 (韓国・ソウル)
 - ・ ACF Executive Council 会議: 9 月 21 日 (韓国・ソウル)
 - ・ ACF 技術委員会: 9 月 24 日 (韓国・ソウル)
- (7) 2 月~3 月, 東南アジア諸国にて開催される, Joint Seminar of Practical Guideline for Investigation, Repair and Strengthening of Cracked Concrete Structures に, 講師としてひび割れ補修補強指針普及委員会の委員を派遣する。

- (8) 軍艦島国際会議 (International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures, RCCS) 実行委員会を立上げ, 2015 年 6 月の開催に向けた準備を行う。
- (9) 2014 年に開催される第 21 回 ISO/TC71 総会および各分科会に ISO/TC71 対応国内委員会から委員を派遣, 国内審議団体として日本の意見を強く主張する。

4. 受託研究業務

- (1) コンクリート構造物の被災低減・早期復旧に関する国際標準の開発を目的とした受託研究業務を, ISO/TC71 対応国内委員会とアジアモデルコード委員会との連携により実施する。
- (2) フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する受託研究を 6 月末までに終了させる。
- (3) 接着系あと施工アンカーの耐アルカリ試験方法の検討を行い, その試験結果をもとに判定基準の作成を目指す受託研究を実施する。

5. 出版事業

下記の出版物を刊行する。

- (1) 第 47 回コンクリート技術講習会テキスト「コンクリート技術の要点' 14」
- (2) 2014 年度コンクリート技士研修テキスト
- (3) コンクリート診断士講習会テキスト「コンクリート診断技術' 15」
- (4) Journal of Advanced Concrete Technology
英文ジャーナル “Journal of Advanced Concrete Technology” (電子公開)
- (5) コンクリート工学年次論文集 第 36 巻 2014 年 (DVD 版)
- (6) Technical Committee Reports 2014 (JCI 研究委員会報告書要旨)
- (7) 次の研究報告書を刊行する。
 - 1) ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会
 - 2) コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会報告書
 - 3) コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会報告書
 - 4) コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会報告書
 - 5) 放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会報告書
 - 6) マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会報告書
- (8) 次の指針を刊行する。
JCI 指針「既存コンクリート構造物の性能評価指針」

6. 会誌発行事業

(1) 会誌「コンクリート工学」

「コンクリート工学」を毎月 1 回刊行して会員に頒布する。
特集テーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------------------------|--------------|
| 1) 産業副産物起源のコンクリート用混和材の有効利用—課題と展望— | 平成 26 年 5 月号 |
| 2) コンクリート技術と人との関わり | 平成 26 年 9 月号 |
| 3) (未定) | 平成 27 年 1 月号 |

会員には発刊 1 年後に電子公開し、非会員には 3 年後に電子公開する。

(2) コンクリート工学論文集

コンクリート工学論文集を電子公開する。

7. 広報事業

(1) 広報活動

公正で開かれた活動を推進するため、本学会の活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開する。

社会一般に向けた啓蒙活動として、広報普及委員会のもとで JCI ホームページの内容向上を図ると共に、会誌「コンクリート工学」、パンフレット（和文、英文）等により本学会の活動状況等について広報活動を行う。

関連業界紙の記者を交えた記者懇談会を定期的開催して、本学会の活動状況の広報活動を行う。

昨年度に引き続きオンデマンド配信の講習会への適用検討を行う。

(2) 普及活動

コンクリートのひび割れ調査、補修・補強指針普及委員会を進める。

本指針の国内・海外講演会等の実施および次回改訂版の発行準備に向けた活動を実施する。また、質問対策や校正については、必要に応じた対応を行っていく。具体的には以下の活動を予定している。

- ① 本指針 2013 版に対する質問対策や校正
- ② 国内・海外講習会（東京、函館、仙台、福岡、フィリピン、バングラディッシュ、ミャンマー）の実施、および講師派遣要請への対応
- ③ 次回改訂版の内容検討
- ④ 国内・海外事例の情報収集
- ⑤ より使いやすいひび割れ判定ソフトの作成

(3) 電子情報化

JCI の様々な活動への電子情報化によるメリットおよび電子情報の有効利用方法を検討する。また、電子媒体を通じて、広く社会や会員に有用な情報を提供できるように、他委員会との連携を視野に入れて活動する。具体的には以下の活動を予定している。

- ・各種活動における電子情報の有効利用方法の検討
- ・会員専用ページのコンテンツの充実
- ・既出版物のデジタル化およびデジタルアーカイブによる資料保存の検討
- ・メールニュースの作成および配信

- ・メールニュースを活用した電子公開後の JCI 発行物の情報発信に関する議論
- ・研究委員会ホームページの作成支援
- ・デジタルアーカイブや動画配信による資料提供に関する議論
- ・JCI ホームページの管理運営を行う新委員会の発足準備

(4) JCI 創立 50 周年記念事業

JCI 創立 50 周年記念事業実行委員会の、総務部会、講演部会、出版刊行物部会、DVD 作成部会にて具体的な当該記念事業の実施内容の決定および準備作業を行う。また、記念事業の一環として軍艦島国際会議 (International Conference on the Regeneration and Conservation of Concrete Structures, RCCS) の準備を進める実行委員会を所管する。

8. 特別委員会

(1) 既設コンクリート構造物の維持管理と補修・補強技術に関する特別委員会

コンクリート構造物の維持管理技術の体系化が急務となっている状況に鑑み、コンクリート構造物の維持管理、補修・補強に関する最新技術の集大成を行う。基本戦略、点検・評価、維持・補修補強、寿命予測、ライフサイクルマネジメントの観点から現行技術の限界や適用範囲および精度を検証するとともに、これらの技術の適用のあり方などについて検討する。また、海外の実情の分析等も通して、維持管理に関する制度面からの検討も行う。これらの成果として、維持管理に対する提言をまとめて報告書の作成を行う。

(2) コンクリートにおける未利用資源の利用拡大に関する特別委員会

平成 25 年度に活動した「未利用資源の有効利用に関する FS 委員会」の委員会名称を変更して継続し、平成 26 年度・27 年度の 2 年間、震災対応の一環として、がれきの有効利用およびこれまで利用・活用が進んでいない資源の有効利用を目指した関連の技術に関して調査・研究を行う。

[公 2 講演会等事業]

1. 年次大会事業

コンクリート工学年次大会 2014 (高松) を 7 月 9 日 (水) ~11 日 (金) の 3 日間、高松市のサンポート高松で開催する。

- 1) 第 36 回コンクリート工学講演会
- 2) 特別講演会：演題「コンクリート技術が実現した魅惑の空間—豊島美術館の設計と施工」
講師 豊田 郁美氏 (鹿島建設 (株) 中国支店建築部建築工事部長兼
岡山営業所・副所長)
演題「コンクリートの新技術を社会に生かすための技術—フライアッシュの発生全量をコンクリートに活用したマネジメント技術」
講師 ソムヌック・タングテルムシクル氏 (タイ・タマサート大学 教授・

シリントン国際工学部長)

- 3) 生コンセミナー: テーマ「どんなん!? 四国の生コン –四国の生コンの現状と将来–」
- 4) 見学会: ① 本四架橋・瀬戸大橋記念館
② 豊稔池堰堤見学とこんぴらさん参拝
③ 直島環境センター視察と家プロジェクト・地中美術館・ANDO MUSEUM 見学
- 5) コンクリート工学会賞(作品賞)受賞者による記念講演
- 6) 懇親会: JR ホテルクレメント高松

2. 講演会, 講習会, シンポジウム等

(1) コンクリート技術講習会

第47回コンクリート技術講習会を10月に東京など全国7都市8会場において開催する。本講習会は昨年度まで2日間で実施していたが、本年度より1日開催とする。

(2) シンポジウム・セミナー・講演講習会

研究委員会報告会, シンポジウム等を次の通り開催する。

- 1) 「マスコンクリートのひび割れ制御指針改訂調査委員会」報告会
日 時: 6月6日(金) 10:00-16:20
場 所: 東京大学 武田ホール
- 2) 「放射性物質の封じ込めとコンクリート材料の安全利用調査研究委員会」報告会
日 時: 6月25日(水) 13:00-16:00
場 所: JCI 会議室
- 3) 「コンクリートのトレーサビリティ確保技術に関する研究委員会」報告会
日 時: 6月27日(金)
場 所: 千代田区立日比谷図書文化館
- 4) 「ASR 診断の現状とあるべき姿研究委員会」報告会
日 時: 7月18日(金) 10:00-17:00
場 所: 東京大学生産技術研究所
- 5) 「コンクリート工学分野における研究史の編纂と研究手法の体系化研究委員会」シンポジウム
日 時: 9月2日(火)
場 所: 東京理科大学 森戸記念館
- 6) 「コンクリート分野における海水の有効利用に関する研究委員会」報告会
日 時: 9月26日(金)
場 所: 東京理科大学 森戸記念館
- 7) 「既存コンクリート建造物の性能評価指針作成委員会」報告会
①日 時: 11月7日(金)
場 所: 東京(予定)

- ②日 時：未定
場 所：大阪（予定）
- 8) 「フライアッシュと細骨材を事前混合したコンクリート用材料の品質基準および使用方法に関する研究委員会」報告会
日 時：未定
場 所：東京（予定）
- 9) (北海道支部)「鉄筋コンクリート構造物のモデルコード研究委員会」報告会
日 時：5月13日（月）支部総会時
場 所：KKR ホテル札幌 3階「鳳凰」
講演者：未定
- 10) (関東支部) 支部総会特別講演会
日 時：5月23日（金）
場 所：東京理科大学 森戸記念館
① 「東南アジアへのインフラ輸出と建設の国際化」
講演者：平 喜彦氏（三井住友建設(株)）
② 「東京五輪1964～国立代々木体育館の施工記録と現在～（仮）」
講演者：毛利元康氏（清水建設(株)）
- 11) (中部支部) 中部支部設立20周年記念講演会
日 時：5月9日（金）
場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス
① 「東日本大震災に関する特別委員会の報告」
講演者：三橋博三東北大学名誉教授
② 「過去の震災に学び南海トラフ巨大地震に備える」
講演者：福和伸夫名古屋大学教授・減災連携研究センター長
- 12) (近畿支部) 特別講演会
演 題：「大量のフライアッシュをどう使っていくか（仮題）」
日 時：5月13日（火）15:40-16:50
場 所：大阪科学技術センター 8F 小ホール
講演者：大前延夫氏（(株)関電パワーテック）
- 13) (中国支部) 特別講演会
日 時：5月23日 15:50-16:50
場 所：広島工業大学広島校舎（201室）（広島市）
演 題：「マスコンクリートの温度ひび割れ解析の現状」
講 師：中村秀明教授（山口大学）
- 14) (中国支部) 研究委員会報告会
日 時：5月23日（金）14:40-15:40

場 所：広島工業大学広島校舎（201 室）（広島市）

演 題：「打設管理記録に基づくコンクリート構造物の品質確保に関する研究委員会」報告

報告者：田村隆弘教授（徳山工業高等専門学校）

演 題：「コンクリート構造物の目視点検への情報技術活用調査研究委員会」報告

報告者：江本久雄助教（山口大学）

- 15)（四国支部）コンクリート教育助成に対する活動報告

日 時：4月11日（金）15:50-16:20

場 所：パールガーデン（高松市福岡町 2-2-1）

演 題：「土木、機械コラボによる防災かまどベンチの製作」

報告者：椎野彰浩教諭, 卒業生（徳島県立阿南工業高校情報土木科）

- 16)（四国支部）第7回コンクリート甲子園の報告

日 時：4月11日（金）16:20-16:30

場 所：パールガーデン（高松市福岡町 2-2-1）

演 題：「第7回コンクリート甲子園の実施報告」

報告者：尾寄秀典教諭（香川県立多度津高校）

- 17)（四国支部）「コンクリートの施工性能の照査・検査システム」研究小委員会
第2期委員会報告に関する四国地区講習会

日 時：9月19日（金）13:30-16:55

場 所：パールガーデン（高松市福岡町 2-2-1）

3. 国際会議, 国際シンポジウム等

- (1) 第1回 ACI-JCI ジョイントセミナーを ACI と共催する。

会議開催日：2014年7月17日, 場所：ハワイ

[公3 表彰事業]

1. 学会賞

以下の5つの学会賞を贈り表彰する。

- (1) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する学術・技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文を対象に、その著者に対し「日本コンクリート工学会賞（論文賞）」を贈り表彰する。
- (2) 本学会刊行物に発表された論文あるいは報告等のうち、コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をしたと認められた論文あるいは報告等を対象に、その著者に対し「同（技術賞）」を贈り表彰する。
- (3) コンクリート構造物の美的価値, 創造性および環境との調和において技術面も含めて優れて

いる造形物を対象に、その構築に貢献した者に「同（作品賞）」を贈り表彰する。

(4) 本学会刊行物に発表された論文のうち、コンクリートに関する独創性、萌芽性および将来性のある優れた論文を対象に、40歳未満の著者に「同（奨励賞）」を贈り表彰する。

(5) 本学会事業の発展のために長年にわたり顕著な貢献のあった会員に「同（功労賞）」を贈り表彰する。

2. 支部表彰

(1) 支部功績賞, 支部優秀学生賞を表彰する。(北海道支部)

(2) 「日本コンクリート工学会東北支部表彰規約（内規）」に基づき、論文賞・技術賞・功労賞・奨励賞・作品賞の対象者を募集し、優秀な作品や功績のあった会員に対して表彰する。(東北支部)

(3) 「日本コンクリート工学会近畿支部表彰に関する内規」に基づき、支部奨励賞の対象者を募集し、コンクリートに関する優れた論文あるいは報告の著者（支部会員）に対して表彰する。(近畿支部)

(4) コンクリートに関する技術の進歩発展に顕著な貢献をなした中国支部所属の個人を対象に「コンクリートマイスター認定者」とする。(中国支部)

(5) 九州・沖縄地区の大学, 大学院, 高等専門学校において、コンクリートに関する優れた研究成果を上げた卒業生, 修了生に支部長賞を与える。(九州支部)

II 収益事業

[収1 資格付与事業]

1. コンクリート技士・同主任技士資格制度事業

(1) コンクリート技士・同主任技士試験

コンクリート技士, 同主任技士試験を11月30日（日）, 全国9都市において実施する。

(2) コンクリート技士・同主任技士の登録

コンクリート技士制度に基づいて、コンクリート技士, 同主任技士試験合格者の登録, ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(3) コンクリート技士研修

コンクリート技士制度に基づくコンクリート技士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート技士資格者および未登録者を対象として、7月2日（水）から8月25日（月）にかけて、全国19都市33会場において実施する。

2. コンクリート診断士資格制度事業

(1) コンクリート診断士講習会

コンクリート診断士講習会を2日間の会期で、4月2日（水）から4月25日（金）にかけて、全国8都市12会場において実施する。

(2) コンクリート診断士試験

コンクリート診断士試験を7月27日（日）、全国9都市において実施する。

(3) コンクリート診断士の登録

コンクリート診断士制度に基づいて、コンクリート診断士試験合格者の登録、ならびに登録有効期間（4年間）満了となる資格者の申請により更新登録を行う。

(4) コンクリート診断士研修

コンクリート診断士制度に基づくコンクリート診断士研修を、登録有効期間（4年間）満了となるコンクリート診断士資格者および未登録者を対象として、10月に全国7都市9会場において実施する。

[収2 その他の収益事業]

1. コンクリートテクノプラザ2014

コンクリート工学年次大会2014（高松）と併行して、コンクリート関連企業および団体により、新製品・新技術等の紹介と情報交換を行う。

Ⅲ その他

1. 名誉会員の推挙

定款第12条に基づき、本学会の目的達成に多大な貢献をした会員等に、別に定める規則により総会の決議を経て、名誉会員の称号を贈る。

2. 長期事業・財政安定化委員会

本学会の長期的かつ健全な事業内容および収支状況を実現するために必要な諸事業の見直し、対策等を検討・答申する。

以上